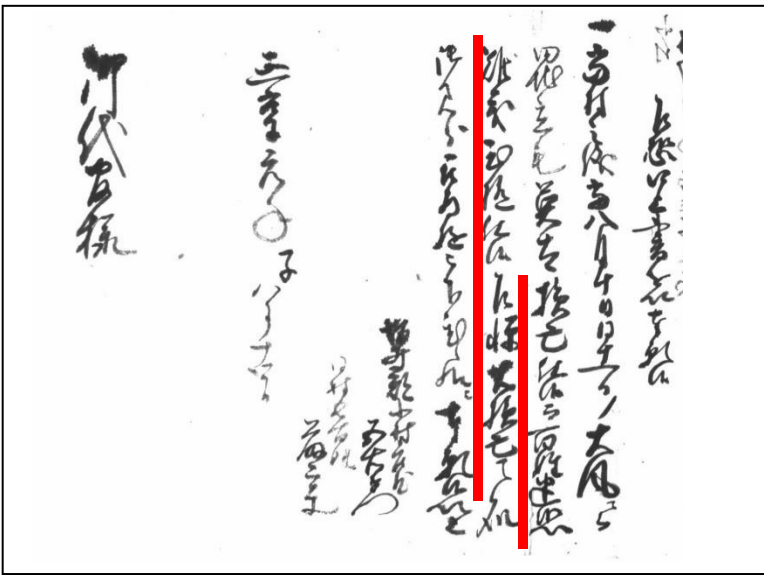


土屋豊孝家文書「乍恐口上書を以奉願候」(風損二付見分願) 当館蔵

難易度 ★★☆☆☆

◆今回は、少しハードルを上げて、一点の江戸時代の古文書を丸ごと読んでみる課題です。古文書によく使われる文字や江戸時代独特の言い回しに慣れましょう。



解説のヒント

この資料は延享元年(一七四四)八月十四日に坂井郡北村がこのたび「大風」によって田畑に莫大な損亡を生じたことを受けて代官に宛てて出されたものです(左端に「御代官様」と大きく書かれています)。

注目すべき文字は表題の「**乍**」の三文字で、「奉願候(ねがいたてまつりそうろう)」と書いてあります。三文字目の「候」の字はかなり崩されていますが、文末や文のつなぎ目によく出てくる文字で、この資料中にも表題を含め計4か所に出ています。この三文字は「お願い申し上げます」の意味なので、この古文書は代官に何かをお願いする「願書」ということになります。本文の最終行に再び「**乍**」とあります。通常、願書では最後の文(傍線部)にお願いの内容が具体的に書かれており、注意して読みたいところですよ。



資料の解読文の空欄 に入る文字は何でしょうか。なお、 に入る文字は、この資料に複数回出ています。

乍恐口上書を以奉願候

- 一、当村之儀、 八月十日同十一日ノ大風二而田地立毛莫太(大)損亡仕、百姓迷惑難儀至極、乍憚右之処御見分被為遊被下置様二、以上
- 坂井郡北村庄屋 五右衛門
同村長百姓 藤兵衛
- 延享元年子八月四日
御代官様

(本文現代語訳)

恐れ乍ら、口上書をもってお願いいたします。

一、当村は、この八月十日と十一日、大風で

田地の作物が莫大な被害を受けたので、百姓たちは迷惑し大変難儀しているところです。憚り乍ら、損亡のところを
【見分**くだされおきますようにお願いいたします。以上。

(*申し上げるのを遠慮すべきところですが)(**検分)

お名前またはペンネーム

(添削をご希望される場合は、「お名前またはペンネーム」をご記入の上、文書館閲覧室のカウンターにご提出ください)

お知らせ くずし字入門講座は7月5日(申)・12日(申)・19日(日)・23日(木) 10時30分～12時(午前の部) / 13時30分～15時(午後の部)、於研修室、各回定員18名、要申込。 ※午前と午後は同じ内容です。お申し込み時にご希望を伺います。